

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月5日

協議会名: 岩出市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 西巡回(紀泉台・吉田)コース (左回り)	高齢者をはじめとする交通弱者の買物や通院など、地域内の日常生活の移動手段の確保を目的とし、継続し運行を実施。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>平成27年度における減少について、下水道工事等による迂回運行の実施や、定期利用者が利用しなくなった等が考えられるものの、明確な要因は特定できていない。</p> <p>平成28年度における利用者数は再度増加傾向にあったが、平成29年度において再び減少した。</p> <p>なお、平成30年度においては増加している。令和元年度における利用者数は前年度より減少傾向であった。令和2年4月以降は新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が出されたため、さらに顕著に減少した。緊急事態宣言解除後も利用者は平年の水準の6~7割程度にとどまっている。</p> <p>このため、令和3年度の目標年間利用者数の下方修正を行い、28,280人と設定したものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、25,452人とどまった。令和4年度も目標年間利用者数30,280人に対して、実績値が28,965人であり、同感染症が収束していなかった影響と考えられる。</p> <p>このような状況下においても、住民の買い物、通院などの日常生活に必要な移動手段を確保するものとして、一定の効果は得られた。</p>	<p>数値目標を下回ったため、これまで以上に利用方法の案内など、新規利用者の増加を中心にPRを実施していく。</p> <p>今後も引き続き、高齢者等の交通弱者の日常の交通手段であることから、市内はもちろん、市域を越える紀の川コミュニティバス、大阪方面路線バスやJR等への乗り継ぎの利便性向上を図る。</p> <p>今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、和歌山バス那賀株式会社が、下記の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗ウイルス加工 ・従来の車内清掃および消毒、バス車両の手すり・つり革・降車ボタンなどにコーティング加工を行った。 ・飛沫感染防止シートの設置 ・バス車内・営業所・定期券販売所に飛沫感染防止シートを設置した。 ・従業員の感染予防対策 <p>手洗い・うがいの励行、マスクの着用、手指のアルコール消毒、出退勤時の健康チェックを行っている。</p> <p>市巡回バスが無料で乗車できる「あいあいカード」の周知に力を入れた。昨年度に引き続き、本庁デジタルサイネージでの周知、岩出警察署に啓発チラシを設置、敬老事業において高齢者等に周知を行った。</p> <p>地域公共交通計画策定のための市民アンケートを令和4年12月に実施した。アンケート結果を基に、現状と課題を分析し、計画案を作成した。令和5年10月の協議会で計画案及びパブリックコメント実施の承認をいただく予定。</p>
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 西巡回(紀泉台・吉田)コース (右回り)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B		
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 中央巡回(南大池・中黒)コース (左回り)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B		
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 中央巡回(南大池・中黒)コース (右回り)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B		
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 東巡回(船戸・根来)コース (左回り)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B		
和歌山バス那賀株式会社	【岩出巡回線】 東巡回(船戸・根来)コース (右回り)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月5日

協議会名:	岩出市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>岩出市は、和歌山県の北部に位置し、人口54,046人(令和5年11月末)、面積38.50km²の、和歌山県北部の玄関都市です。岩出市では、平成21年度に岩出市地域公共交通協議会を設置し、より住民に利用しやすい巡回バスルートやバス停の見直しなどに取り組んできました。</p> <p>人口が増え続けてきた本市においても、まもなく人口減少に転じようとしており、併せて高齢化の波は避けることはできず、交通弱者である高齢者等の増加は年々否めない状況になっています。</p> <p>このことから、高齢者をはじめとする交通弱者の買物や通院など地域内の日常生活の移動手段として、多くの住民に利用していただけるよう、より利便性の高い巡回バスネットワークとして確保維持していく必要があります。</p> <p>この巡回バス路線は、JR及び大阪方面路線バス・紀の川コミュニティバスと接続しており、市外への移動も円滑にできるよう、さらなる利便性の向上を目指します。</p>